

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
2		
○必修 学校必修 必修選択 自由選択	小山 淳 橋口 まり子 永沢 由佳	ちくま現代の国語 (筑摩書房)

◆学習の目標

- ・言語活動を通して、論理的に考える力や他者との関わりの中で伝え合う力を育てる。
- ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする態度を養う。
- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、自分の思いや考えを広げ深めさせる。

◆主な学習内容・方法

- ・主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開を理解する。
- ・文章に含まれる情報を相互に関連づけながら、内容を的確に捉え、要旨を把握し解釈する。
- ・目的に応じて文章や図表の情報を関連付け、本文の構成や論理の展開について理解を深める。

◆到達目標と観点別評価の評価規準

- 〔標準〕
- ・認識や思考を支える言葉の働きを理解し身につけている。
 - ・文章の内容や構成、論理の展開を捉え、要旨や要点を的確に把握できる。
 - ・実社会に必要な語句や語彙の用法を理解し、適切に用いることができる。
 - ・多様な観点から情報を収集整理し、伝え合う内容を検討することができる。
 - ・自分の考えが正確に伝わるよう表現の仕方を工夫することができる。
- 〔応用〕
- ・多様な種類の文章や資料から解釈を導き、適切に表現できる。

〔観点別評価の評価規準〕

○知識・技能

言葉の特徴や使い方を身につけ、文章に含まれる情報の扱い方を学び、実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。

○思考・判断・表現

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域について、論理的に考えて要旨を把握し、多様な情報を収集整理し、論点を共有しながら自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

○主体的に学習に取り組む態度

多様な情報を整理し、他者や社会と関わり意見を交換しながら、理解したことや解釈したことをまとめ、自分の考えをまとめようとしている。

◆年間予定授業時間

予定時数	70時間	1学期 (26時間)	2学期 (28時間)	3学期 (16時間)
------	------	------------	------------	------------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

- ・本文を事前に通読し、分からない漢字や語句、筆者について予め調べておく。
- ・段落相互の関係や全体の構成に気を付けながら、本文の展開と主張を整理しておく。
- ・副読本を自学自習で読み進め、多様な文章に慣れ、発問に対する解答の仕方を練習する。
- ・授業で課される宿題や課題に対して主体的に取り組む。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	単元 ごとの 時間数	学習の内容	学習到達目標
1 学期	4	「ことばとは何か」（内田樹）	5	・具体例や比喩がどのような役割を果たすか考え、文章作成に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章における具体例と比喩の使い方を学び意見文を書くことができる。 ・登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を適切に把握し、内容の解釈をふまえて自分で評価し表現の仕方を工夫して発表できる。 ・筆者の意見と一般論との関係について理解している。 ・対比構造を理解し文章構成を考えて意見文を書くことができる。
	5	「羅生門」（芥川龍之介）	8	・内容の解釈をふまえて粘り強く本文の描写をたどり、登場人物が主張する論理についての確に読み取りまとめる。	
	6	「デジタル社会」（黒崎正男）	4	・主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。	
	7	「開かれた文化」（岡真理） 「ことばがつくる女と男」（中村桃子）	5 4	・対比を理解し文章構造を捉え筆者の主張をつかむ。 ・積極的に本文中に論拠を求め、筆者の主張に対する自分の考えを、表現の仕方を工夫して書く。	
2 学期	8	「失われた両腕」（清岡卓行）	5	・これまで自明とされてきた前提に疑問を突きつけ、発想の転換を促す筆者の主張をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を参考に、私たちが日頃、どのような前提にとらわれてしまっているかを考えることができる。 ・文章構造を理解して、文章を要約することができる。 ・寓話やエピソードを交え、自分の主張を相手に伝えることができる。 ・比喩や言い換えなどの修辞や表現の工夫を理解し、登場人物の判断の根拠を適切に解釈できる。 ・抽象論を読み、筆者の主張を整理できる。
	9	「魔術化する科学技術」（若林幹夫）	6	・文章要約の仕方をつかみ、文章理解を深める。さらに、他の資料やテキストと併せて読み合わせ、理解を深める。	
	10	「マルジャーナの知恵」（岩井克人）	5	・一つのエピソードから筆者の主張がどのように効果的に引き出されているかをつかみ、実際にエピソードを交えた説明をできるようにする。	
	11	「夢十夜」（夏目漱石）	6	・非日常性をもった世界において「自分」は何を判断の根拠としているかを適切に解釈し、解釈した内容について自らの言葉で紹介文として表現する。	
	12	「身体この遠きもの」（鷺田清一）ほか	6	・抽象的な文章を通して、具体例を挙げることの大切さを理解する。文章における帰納法、演繹法を理解する。	
3 学期	1	「主体という物語」（小坂井敏晶）	6	・一般的な事実を多くのデータによって否定することで、一見常識外れに見える筆者の主張が、説得力のあるものとなっていることを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自説を説くときに、裏付けとなる根拠を示すことを主眼に置いて文章を書くことができる。 ・現代の社会や政治について述べた文章から、他の資料も併せて情報を集め、妥当性や信頼性を吟味して整理することができる。 ・名づけられた言葉が新たな現実を作り出す例を考えることができる。
	2	「リスクと近代社会」（大澤真幸）	5	・現代社会の課題を把握し、根拠の示し方や説明の仕方を工夫して自らの意見や考えを論述する。	
	3	「名づけと所有」（西谷修）	6	・日常的に使われている言葉が、表面的な意味だけではなく、その背後には隠された意味や働きがある多角的なものであることを理解する。	